

# 開発の舞台裏

第31回 中小企業優秀新技術・新製品賞

りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社選定 **5**

優秀賞

ロボテック

クレーン以上、ロボット以下。ロボテック(東京都中央区)は約1

トのつり荷を数百kgの力でハンドリングできる電動バルンサー「ムーンリフタ」を開発した。重量センサーとサーボモーターで力と位置を常に検知し、つり荷のバランスを取りながら人のワークをサポートする。

吉本喬美社長は開発のきっかけについて「顧客からの一言だった」と振り返る。2014年9月に電動トルクアクチュエーター「ユニサーボ」を発表。画期的な製品だったが、当時はなかなか売れなかった。そんな時、顧客に「ユニサーボの技術を応用して電動バルンサーをつくってみたら」

## 電動バルンサー「ムーンリフタ」

### 顧客の一言がヒントに

と投げかけられた。試作を重ね、15年12月にワイヤロープでつり荷をバランスさせる初号機を完成。顧客にヒアリングをすると、自動車工場は社内規定でワイヤロープの交換サイクルが早く、高頻度のワイヤ交換と投げかけられた。作業がネックとなっていた。また食品会社からは足を置いた会社。チェン足置きはワイヤロープの巻き上げ技術などの鉄線が食品へ混入する可能性を危惧された。知見はなかった。開発体制は吉本社長を責任者に7人。構造も含めて一かた。操作・安全性も増し、受注台数は急激に伸びた。

現在は120kg・4.8mのつり荷重量を中心に納入先の7割以上が大企業だ。「人手による作業が多いのは中小企業で、高齢化も進んでいる。力仕事のサポートとして使ってもらいたい」



だが問題はまだまだあった。つり荷を水平に納入先の7割以上が1m以上ある位置決めコントローラーは有線で本体に取り付けてあった。力仕事のサポートとして使ってもらいたい

「ムーンリフタ」(同)と新しいマーケットに手を置く吉本喬美社長(右)と嶋本篤(左)取締役 (鎌田正雄) (火・木曜日に掲載)